

刷用のソフトウェアや

「ジッド・フレックス㈱（東京都中央区銀座、三島一剛社長、☎03・55024・744）は、『製版現場の働き方改革』をテーマに、複数のソフトウエアを組み合わせた効率化ソリューションを提案している。多様なソフトを販売してきた見から、印刷業界の自動化に関するメリットとギー

注意点などを紹介する。

アビッド・フレックス
は、商社として各ソフトの
会所を把握している点を生
かし、ワークフローを自
動化する「en focus
SWITCH」と「同P

「STOP」、イラスト
レーターのプラグインソフト
「Pack#」、ジョブ
マシン「ソグと面付け」を支
援する「PHOENIX」
などを適宜組み合わせるソ
リューションを訴求。「ソ
リューションの仕様に合わせるので
なく、企業ごとの環境に

「わせた最適な自動化プロトフォーム」（担当者）提案している。

tion) とは
（ロボット）
言葉です。

imation) とは
複数な作業の

RPA (Robotic Process Automation) とは

自動處理 RPA RPA

これまで私たち人間が手作業で行ってきた作業を、ルールで処理する技術（ロボット）に代行してもらうことで、業務の大幅な自動化や効率化を図る取り組みを指す言葉です。

RDA RDA (Robotic Desktop Automation) とは
自動判断では困難な処理は人が認識・判断し、処理はマクロ機能などを用いて複雑な作業の
「半自動化」することで、決められたプロセスを安定的・定常的に行ないます。

例題ワークフロー



アビッド・フレックスが提案する、製版工程のRPAとRDA切り分けの図。「付加価値創出」「ミス防止」などの観点で分類していき「自動化るべき領域」と「人力で付加価値を創出できる領域」に分ける

ば、それは営業の業務の増加も意味する。「作業量が増えるのを嫌うか、スキルアップのチャンスと捉えるか、社内で十分な説明と理解が必要」(担当者)とアドバイス。続けて「営業や経営層の方々には、ソフトの操作方法などの説明ではなく、何が実現できるかを話すことにしている。要件を固めていき、最適なワークフローを構築していくことが重要」と説く。

自動化の要件定義

同社はソフトの導入に関して「目的と手段が逆転してしまう現象が間々見られる」と警鐘を鳴らす。ワーカーフローの自動化によって「作業時間の短縮」「生産性の向上」など、何を達成したいのか目的が定まっていないと、手段であるソフトの仕様に引っ張られて「ソフト側の都合で合つせない」という現象が発生する。

印刷データの加工や修正は顧客ごとの好みに合わせて手を加える必要があるためRDA、すなわち、付加価値を生む“完全に自動化するべきではない”領域といふわけだ。一方で、面付けは印刷物のサイズと部数が決まれば、定められた枠の範囲内でいかに無駄なく収められるかが、おのずと決まってくる。加えて、面付けはミスが起こると後の製版・印刷工程へ手戻りなどの影響をダイレクトに与えてしまう作業であるため、極力人の手が介入しない方が望ましいという。

的を明確化するコンセプトの設定、すなわち「要件定義」が重要となるわけだが、ここで欠かせないのが社内のコミュニケーションだ。DTPオペレーターの業務を営業サイドが理解できていない場合、入稿データの確認において「イラストレーターのバージョンが異なるため差し戻し」といった煩雑な作業が発生する事態に。一方、営業サイドから見ると「顧客の作業環境や細かな要望にDTPオペレーターはなぜ対応できないのか」といった疑問が生じるケースも。